



大椿ゆうこ参議院議員を迎え 社民党街頭演説会



6月1日（日）、まちなか広場前にて、社民党副党首「大椿ゆうこ」参議院議員を迎えて、社民党街頭演説会を開催しました。

私からも、福島市政の課題などについて、手話通訳をまじえてお話しさせていただきました。

守ろう！「憲法と女性の権利」



5月20日（火）市民センターで、「憲法と女性の権利」についての学習会が開かれました。

第一部では、二瓶由美子さんから、日本の女性がこれまで勝ち取ってきた権利についての講演がありました。現在も残る「無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）」による差別に対し、認識と払拭が重要だと感じました。

第二部では、大橋さおり県議や島明美伊達市議と、女性議員の置かれている現状等について、パネルディスカッションをさせていただきました。

楽しく、おいしく、ちまき作り



6月15日（日）、市民センターで、手話サークルの仲間と「ちまき作り」をしました。

ちまき作りは約20年ぶりで、うまく紐で巻けず大変でしたが、みんなで楽しみながら、おいしいちまきができました！

いきいき、元気な小倉寺町会



5月11日（日）、小倉寺町会第69回定期総会が開かれました。

令和6年度は、一時避難所となった旧浄水場3階の見学や5年ぶりに開催して大盛況だった夏祭り、敬老会を「えがお祭り」とし、広く声掛けがされたことなど、新しい試みがたくさんありました。

また、市の「ごみ減量・分別強化」について、ルールの周知や新しい冊子の件など、活発なご意見が寄せられました。

三浦ゆみこと歩む会



三浦ゆみこの
Instagram、
随時更新中です



ぜひ、「歩む会」会員になってください

〒960-8142

福島市小倉寺字町畑 13

TEL / FAX : (024) 563-1539

E-mail : miura.yumiko5.27@gmail.com

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.8

2025年6月

「市民の思い」を市政につなげて

6月定例会議では、初日1番目の質問で少し緊張しましたが、いつもご支援いただいている皆様のおかげで何とか乗り切ることができました。

今回は、4項目について質問しました。

3月1日から施行されている「ごみの適正排出に関する周知徹底」と、4月1日から始まった「新シルバーパスポート制度」について、市民の声を伝え、市の考えを質問しました。

また、「ふくしまシティハーフマラソン大会」を再度取り上げ、合理的配慮についての市の考え方を確認しました。

最後に、昨年4月に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づき、市としての、基本計画の策定における審議体制および、相談支援の現状について質問しました。

いずれも数字だけでは状況が把握しきれない問題ばかりです。そこには市民の思い、市民の声があります。

市は、市民の声にいつそう耳を傾ける姿勢を持って、課題の解決に取り組んでいただきたいと思います。

三浦由美子

この夏、参議院議員選挙

物価高から 暮らしを守る 社民党

変わるの私たち
変えるのも私たち



参議院議員・社民党副党首
おおつばき

大椿ゆうこ

大椿ゆうこのプロフィール

社会民主党副党首。参議院議員。就職氷河期世代で30代まで非正規雇用を掛け持ち。2006年より関西学院大学で障害のある学生の就学支援事業に携わるが、2010年上限4年の有期雇用を理由に雇止め解雇となる。継続雇用を求め3年9か月闘うが、原職復帰は叶わず。2011年から大阪教育合同労働組合の専従役員として主に非正規労働者の権利獲得のために活動。2016年同労組執行委員長。2023年4月、参議院議員に繰上げ当選。



大椿ゆうこ公式ウェブサイト

大椿ゆうこさんを
引き続き国政の場へ



6月議会で一般質問に立ちました — 裏面にダイジェスト版を掲載しています

困っている人にエールが届く、きめ細やかな市政を求めて

6月定例会議



■ 質問項目 ■

【一般質問】

- 1 ごみ問題について
- 2 新シルバーパスポートについて
- 3 ふくしまシティハーフマラソン 2025 について
- 4 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律について

—市民、町内会、市— ともに「ごみ問題」に取り組むために

改正「福島市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」が、3月1日に施行されたことに伴い、警告シールの貼り付けや直接指導を行った件数について質問した他、ごみの出し方を一冊にまとめた「クリーンガイドブック」の全戸配布など、町内会未加入の方を含め、すべての市民にごみ出しルールの周知を図るべきとの立場から、市としての所見を伺いました。



これに対し、環境部長より「警告シール（赤色シール）を貼付し、自主的な回収を求めた案件はあったが、開封調査を導入して以降、これまでに改善勧告および公表にいたった案件はなかった」との答弁がありました。

また、「クリーンガイドブック」については、平成29年度に全戸配布をして以降、転入者や希望者にのみ配布となっているとの報告と併せて、ごみ分別アプリ「さんあーる」の普及に努めたいとの答弁にとどまりました。

質問の最後に、改正された条例では、適正なごみ出しは「市民の役割」から一歩踏み込んで「市民の責務」となっていることから、適正なごみの出し方をきちんと周知するとともに、ごみの減量と分別への意識向上のための工夫を求めました。

傍聴して下さった皆さん、ありがとうございます！



皆さんの傍聴に
大変励まされます！

高齢者に安心と健康な暮らしを —新シルバーパスポート問題



今年4月から「新シルバーパスポート制度」発足により、「バス・飯坂線とタクシー併用」を申請した人の人数と割合を質問し、都市政策部長より「申請者34,219人中、タクシー併用の申請者は24,550人で占める割合は71.7%」との答弁がありました。

4月末時点の実利用者は9,438人となっていますが、希望が多い「タクシー併用」の申請者のうち約4,000人の方に、手続きに再来庁が必要であることの理解が浸透されておらず、まだ利用できていないという実態が伺われました。

また、「新シルバーパスポート制度」の根本的な問題である利用限度額について、当初から懸念した通り、通院などで「あっという間になくなった」との声が数多く寄せられています。こうした声を紹介し、市に実態把握の上、「必要に応じた見直し」を求めましたが、市長より「当面は多くの方に利用してもらえるよう新制度についての周知徹底を図る」との答弁にとどまりました。

ふくしまシティハーフマラソン 2025 真の「合理的配慮」を追求

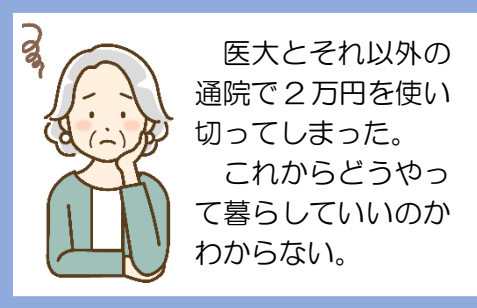
5月18日に開かれたふくしまシティハーフマラソンでは、デフサッカーの松本卓巳選手がゲストで参加され、健常者も障がい者もともにするスポーツとして理解を深める良い機会となりました。その一方で、申し込み時点で障がい者の把握が依然としてなされていないことに関連して、市としての「合理的配慮」の考え方を再度、質問しました。

これに対し、市民・文化スポーツ部長より、「障がいを持つ方への十分な対応をしてきた」との認識が示され、手持ち看板や手話通訳者の配置など「合理的配慮をしてきた」との説明がありました。が、「合理的配慮には、配慮を必要とする本人の意思表示が重要である」という私の考えとの相違点も明らかになりました。

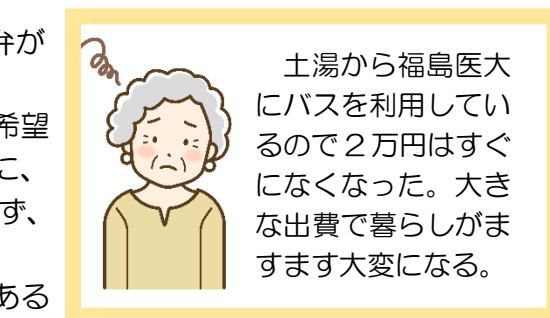
「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行 福島市「基本計画」策定に向けて

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（いわゆる女性支援新法）が4月に施行され、自治体に女性の福祉増進のための支援を包括的に提供する体制整備が求められていることに関連し、市の基本計画の策定に向けた取り組みや、現在、市で行っている女性支援について、相談員の配置やシェルター等を含めて質問しました。

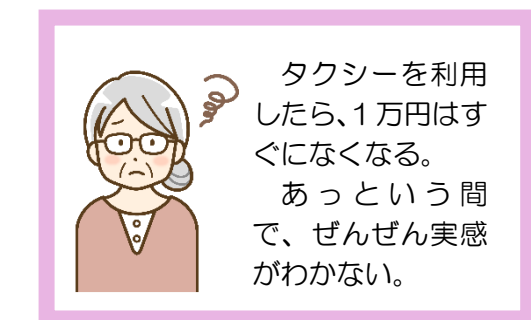
基本計画策定については総務部長より「庁内組織での議論に加え、市の男女共同参画審議会の中で専門家からの意見を聴取しながら進めていく」との答弁があり、また、こども未来部長からは、令和6年度の相談件数は706件あったこと、非正規の相談員が2名で対応しているなど、具体的な報告がありました。



医大とそれ以外の
通院で2万円を使い
切ってしまった。
これからどうやっ
て暮らしていいいの
かわからない。



土湯から福島医大
にバスを利用してい
るので2万円はすぐ
になくなった。大き
な出費で暮らしがま
すます大変になる。



タクシーを利用
したら、1万円はす
ぐになくなる。
あっという間
で、ぜんぜん実感
がわからない。

▶ごみ問題について

今年、3月1日からごみの出し方についての条例が変わりました。

今回、地元町内会から、ごみの出し方の周知徹底についてご意見をいただき、町内会に未加入の方への情報伝達方法として、「クリーンガイドブック」を全戸に配布し、情報共有することを求めましたが、市当局からは、紙媒体は印刷や配布に多大な負担がかかること、ごみ分別アプリ「さんあーる」等のデジタルツールがあるので活用してほしいとの答弁がありました。

今まで、「デジタルクーポン」などの問題などで指摘してきましたが、現在の高齢社会の中で、行政の情報がアプリ等のデジタルに極端に偏ることは、情報格差を生み出し、市と市民のつながりがますます希薄になる恐れがあります。とりわけ、ごみ問題のような生活に密着した情報は、すべての市民の手元に確実に届く必要があるのではないのでしょうか。

今後も、市民の皆さまの声をお聞きし、実態を把握しながらこの問題を注視してまいります。

▶新シルバーパスポートについて

今年4月1日から「新シルバーパスポート制度」が始まり、新たにタクシー利用が可能になったことで、数の上では申請者が増加しました。

その一方で、申請の方法や手続きが難しくて使うことをあきらめたり、上限額が2万円になって、「通院などで5月で既に使い切ってしまった」との声も方々で聞かれます。このような、高齢者からのあきらめの声や、暮らしにひびいている実態が明らかになっていることから、再度、見直しが必要と訴えましたが、市は「新しい制度の周知徹底、浸透に努める」との答弁に終始しました。

このことは、本市がこの制度を、交通政策の一環としてしか考えておらず、あえて福祉的な観点を排除しているように思えてなりません。

高齢者対象の施策であれば福祉的要素が不可欠です。高齢者のくらしと健康を応援する福島市であってほしいとの思いから、引き続き、見直しを求めてまいります。

